

ENEOS 童話賞 選考委員のご紹介

西本鶏介

奈良県に生まれる。昭和女子大学名誉教授。児童文学や児童文化に対する評論、作家・作品論、民話の研究、創作など幅広く活躍。絵本や民話の再話も多い。また坪田譲治文学賞、こころの絵本大賞などの選考委員もつとめる。近著に「おめでとうのさくらまんじゅう」（絵本塾出版）、「すずめのうんどうぼうしつくります」（金の星社）、「西本鶏介児童文学論コレクション（3巻）—巖谷小波文芸賞特別賞 受賞—」（ポプラ社）などがある。

立原えりか

東京都に生まれる。童話作家。「人魚のくつ」でデビュー。ユーキャンの「立原えりかの童話塾」塾長、広島アンデルセン、池袋コミュニティカレッジほかで童話創作教室の講師などをつとめる。代表作は「木馬がのった白い船」ほか、「うたってよ、わたしのために」（ポプラ社）、「あんず林のどろぼう」（岩崎書店）、詩集「あなたが好き」（大日本図書）、「王女の草冠」（愛育社）、近著に「立原えりかのグリム童話」（朝日学生新聞社）などがある。

角野栄子

東京都に生まれる。童話作家。主な作品に「魔女の宅急便」（福音館書店）、「なぞなぞあそびうた」（のら書店）、「ネッシーのおむこさん」（金の星社）、「アッチ コッチ ソッチのちいさなおばけシリーズ」「魔女からの手紙」「ちいさな魔女からの手紙」（ポプラ社）、「わたしのママはしずかさん」（偕成社）、「ファンタジーが生まれるとき」（岩波書店）、「ラストラン」「ナーダという名の少女」「トンネルの森 1945」（角川書店）、近著に「角野栄子エブリデイマジック」（平凡社）、「境目なしの世界」（理論社）、「角野栄子の毎日いろいろ」、『作家』と『魔女』の集まっちゃった思い出（角川書店）などがある。2013年に第48回東燃ゼネラル児童文化賞（現ENEOS児童文化賞）、2018年に国際アンデルセン賞・作家賞受賞。

中井貴恵

女優・エッセイスト。数々の映画、ドラマに出演。現在は「大人と子供のための読みきかせの会」の代表をつとめる。2006年より様々なジャンルの音楽と朗読を合体させた朗読公演「音語り」にも精力的に取り組んでいる。「あらしのよるに」「きいろいばけつ」「ナゲキバト」「晩春」「秋日和」「東京物語」「秋刀魚の味」などを全国で公演中。2017年より、ゆったりと落ち着いた空間で大人が絵本の朗読を楽しむ公演『おとな絵本の朗読会』をスタート。エッセイスト、絵本翻訳家として著作物多数。

宮西達也

静岡県に生まれる。絵本作家。人形美術、グラフィックデザイナーを経て絵本をかきはじめる。主な作品に「おまえうまそうだな」（ティラノサウルスシリーズ：ポプラ社）、「おとうさんはウルトラマン」「パパはウルトラセブン」（ともに学習研究社）、「ヘンテコリンおじさん」（講談社）、「にゃーご」（鈴木出版）、近著に「おかあさんごめんなさい」「ふしぎなヒーローやさん」（ともに金の星社）、「ちかてつサブちゃん」（ほるぷ出版）など多数。

薫くみこ

東京都に生まれる。児童文学作家。高島屋の広告デザイナーを経て、児童文学、絵本、童話の創作を始める。主な作品に「十二歳の合い言葉—12歳シリーズ」（ポプラ社）、「あのときすきになったよ」（教育画劇）、「ハキちゃんの『はっぴょうします』」（佼成出版社）、「なつのおうさま」（ポプラ社）、近著に「ぞぞぞでんしゃ—赤いでんしゃシリーズ」（ひさかたチャイルド）、「スパイガール GOKKO シリーズ」（ポプラ社）「しらゆきちりか ちっちゃいな」（PHP 研究所）など多数。